

柑橘6月の管理

5月6日に行われた着花調査の結果では、温州前年比100%、甘夏前年比98%、日向夏前年比104%、ポンカン前年比96%の収量が予測されています。今年度は、裏年傾向ではありますが、品種や園地により着花状況に差が見られます。着花が多い樹は、早期摘果や葉面散布の実施を、着花が少ない樹は、着果対策として芽かきやかぶさり枝の除去などの対策を行いましょう。自園の状況を把握し、適期に管理作業を行いましょう。

6月からは黒点病の防除が始まります。黒点病は秀品率を大きく下げ、所得低下につながります。まずは、黒点病の防除を確実にを行い、秀品率を上げ有利な販売につなげましょう。

表1 令和3年5月6日賀茂営農技術員会着花調査結果

品 種	新葉率	有葉花率	葉花比
早 生	54.3	11.4	3.0
青 島	62.4	17.6	3.6
甘 夏	43.4	14.9	2.2
日向夏	54.8	10.7	1.3
ポンカン	55.7	50.4	6.2
不知火	58.7	70.3	7.3
はるひ	61.5	32.3	3.9

表2 開花期(令和3年5月14日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	青島温州				太田ポンカン			
	始期	盛期	終期	期間	始期	盛期	終期	期間
R3	5月3日	5月8日			4月29日	5月8日		
平年	5月12日	5月17日	5月24日	13	5月8日	5月15日	5月20日	13
R2	5月4日	5月12日	5月19日	16	5月3日	5月13日	5月17日	15
R1	5月13日	5月18日	5月26日	14	5月10日	5月15日	5月22日	13
H30	5月2日	5月4日	5月16日	15	5月1日	5月5日	5月14日	14

年度	はるみ				不知火			
	始期	盛期	終期	期間	始期	盛期	終期	期間
R3	5月6日	5月12日			4月30日	5月6日		
平年	5月12日	5月17日	5月23日	12	5月10日	5月15日	5月23日	14
R2	5月10日	5月14日	5月19日	10	5月4日	5月13日	5月17日	14
R1	5月11日	5月15日	5月22日	12	5月9日	5月13日	5月22日	14
H30	5月4日	5月7日	5月16日	13	5月1日	5月4日	5月14日	14

年度	川野ナツダイダイ				ヒュウガナツ			
	始期	盛期	終期	期間	始期	盛期	終期	期間
R3	4月21日	5月5日			5月1日	5月9日		
平年	5月9日	5月14日	5月22日	14	5月11日	5月18日	5月28日	18
R2	4月28日	5月6日	5月17日	21	5月5日	5月14日	5月25日	21
R1	5月6日	5月11日	5月20日	15	5月10日	5月13日	5月26日	17
H30	4月30日	5月4日	5月13日	14	5月1日	5月4日	5月17日	17

(1)着果管理

①着果過多樹の管理

1、樹冠上部摘果

生理落果期間中に樹上3分の1全摘果を実施し、早期に着果負担を軽減しましょう。

2、摘果剤の利用

温州みかんで摘果剤を利用する場合は、満開20～40日後にターム水溶剤1,000～1,500倍を散布します。摘果の効果は、25℃以上の高い気温が散布後2～3日続くと高くなります。散布直後に降雨があっても、再散布は行わないようにしてください。

はるみには、満開10～20日後にターム水溶剤1,000倍とマシン油150倍を混用散布することで摘果の効果が表れます。

②着果が少ない樹の管理

新梢が多いことから、花との養分競合が発生し、生理落果が助長されます。次の作業を行い着果率の向上を図りましょう。

1、芽かき 果実周辺の新梢の芽かきを行い、果実と葉の養分競合を防ぎましょう。

2、かぶさり枝の除去 着果している枝の上にかぶさっている枝を除去して日照条件を改善し、結実促進を図ります。

③葉面散布

結実向上・果実の初期肥大促進を図るため、開花から生理落果終了までの間に国産尿素500倍等チッソ主体の液肥を2～3回葉面散布しましょう。

④早期摘果

不知火、はるみ等の中晩柑では早期摘果を実施し、樹勢維持および果実肥大の促進に努めましょう。6月は生理落果期にあたり、残る果実と落ちる果実の判断がつかないと思いますが、着果させてはいけない部分(主枝の先端)や低品質となる果実(内成り・すそ成り・直花・キズ果)の全摘果を実施しましょう。

(2)施肥管理

夏肥は樹勢の維持や結実の安定を目的としています。旧葉の葉色が悪くなる等、樹勢が低下している樹が見られますので確実に基準量を施用してください。また、極端に花が多い場合は施肥時期を早めてください。

表3 6月の施肥

()内の数字は黒ボク土壌

時期	品 種	肥 料 名	反当量(袋)
6月中旬	早 生	プレミアムユーキ	3(3)
	青 島・普通		4(4)
	甘夏・清見・セミノール 日向夏・不知火・はるみ・はるひ	東部柑橘ペレット066	6(5)
	ポンカン・伊予柑		7

(3)病虫害防除

黒点病は雨によって感染します。6月は梅雨入りし降雨量が増えるため、最も感染しやすい時期となります。一度ついた黒点は取れません。天気予報に注意し早めの防除を心がけると同時に、枯れ枝の処理も行いましょう。また、かいよう病が発生しやすい品種では、6月に入ると果実の発病も始まりますので防除をしてください。苗木では6月中旬からミカンハモグリガの防除をしましょう。アドマイヤー、アクタラは残効が約2週間、エクシレルの100倍は約2ヶ月です。

表4 6月の防除

時 期	品 種	対象病虫害	薬 剤 名	倍 率	安全使用基準	備考
6月上旬～中旬	柑橘全般	黒点病	ペンコゼブ水和剤	600	90日前～4回	
		ミカンハダニ	マシン油乳剤	150	—	
		カイガラムシ類	トランスフォームフロアブル	2,000	前日～3回	
6月中旬～下旬	甘夏・伊予柑・ネーブル・はるみ等	かいよう病	ムッシュボルドー	1,000	—	
			クレフノン	200	—	
6月中旬	かんきつ苗木	ミカンハモグリガ	エクシレルSE	100	育苗期～3回	エクシレルはアゲハと同時防除が可能です。アゲハに対する残効は約1ヶ月です。
			アドマイヤーフロアブル	4,000	14日前～3回	
			アクタラ顆粒水溶剤	2,000	14日前～3回	
※発生時	柑橘全般	果樹カメムシ類	アドマイヤーフロアブル	4,000	14日前～3回	
			アクタラ顆粒水溶剤	2,000	14日前～3回	
		そうか病	マネージDF	6,000	30日前～3回	マネージまたはムッシュボルドー+クレフノンを散布してください。
			ムッシュボルドー	1,000	—	
			クレフノン	200	—	

※マシン油とボルドー液の散布間隔は2週間以上空けてください。 ※マシン油の使用は6月迄としてください。

※農薬安全使用基準を厳守し、出荷前に必ず防除履歴を提出しましょう！！

JA伊豆太陽東伊豆営農経済センター 0557-95-3614